特集

「SHIP」理念に基づく価値創造事例
Value creation based on "SHIP" Philosophy

創業時から大切にしている「SHIP」理念は、今なお当社グループの事業活動の中で息づいています。
ここでは「SHIP」理念を体現する4つの取り組みについてご紹介します。

case 01 人々がより良く生きる環境をつくる
Well-Being の推進

当社グループは、ミッションである「生命を守る人の環境づくり」のもと、従来の「生命を守る」取り組みに加え、「自然を守る」視点を取り入れたWell-Being推進事業を積極的に展開しています。その一環として、①公園の指定管理業務、②学校・保育施設などの包括管理業務を通じ、地域社会への貢献を進めています。

2022年7月より、吹田市立江坂公園及び江坂図書館、桃山公園の魅力向上事業における指定管理者（Park-PFI事業※）として、地域の賑わい創出に取り組んできました。2023年10月からは、吹田市の小学校・幼稚園・保育所等、合計84施設の施設管理業務などを、今後5年間にわたり受託しました。公共施設の包括管理を通じ、安全・安心な学びと育ちの場づくりに貢献しています。さらに、中の島公園・中の島スポーツグラウンドの指定管理や、2026年7月から開始した京都府立植物園の施設管理・運営業務など、Well-Being事業を新たな地域・領域へ展開しています。

今後も、地域や自然とのつながりを大切にしながら、人々が健康でより良く生きることのできる環境づくりに取り組み、持続可能な地域社会の実現に貢献してまいります。

※ Park-PFI：2017年の都市公園法の改正で創設された、民間事業者による公共還元型の収益施設の公募設置管理制度のこと。


中の島公園、吹田市立中の島スポーツグラウンド

case 02 医療材料の安定供給を支える次世代物流プラットフォーム
SHIPグランベース東京

医療現場に必要な医療材料を、必要な時に確実に届けることは、安全で質の高い医療を支える重要な社会インフラです。当社グループは、SPD（医療物流管理）サービスを通じて医療機関の業務効率化と安定供給を支援しており、その中核拠点として2026年2月に首都圏物流拠点「SHIPグランベース東京」を開設しました。

本施設は、首都圏に分散していた物流機能を集約し、約60施設・約2万6千床の医療機関への供給を担う次世代型物流拠点です。AI・ロボティクス・RFIDなどの先進技術と自動倉庫システム「RENATUS」を活用し、入荷・保管・出荷までの物流プロセスを高度化することで、物流品質の向上と安定供給を実現しています。また、日本通運との協業によるRFIDトラッキングシステムの導入により、医療材料の位置情報をリアルタイムで把握し、トレーサビリティの強化を推進しています。さらに、BCP対応施設として災害時にも稼働可能な体制を整えるとともに、大阪ソリューションセンターとの連携による供給網の複線化を図り、医療物流のレジリエンス向上にも取り組んでいます。

当社グループは、物流DXの推進を通じて医療材料の安定供給を支え、持続可能な医療提供体制の構築に貢献してまいります。



case 03 地域完結型医療を支える新たな基幹病院

小田原市立総合医療センター

神奈川県小田原市の小田原市立総合医療センターは、2市8町からなる県西地域の基幹病院として、2026年5月に開院しました。再整備では、県立足柄上病院との機能分化と役割分担のもと、周産期医療とがん放射線治療を集約し、三次救急・高度急性期・急性期医療を強化。県西地域で唯一の救命救急センターとして高度医療設備を拡充しました。さらに、免震構造や屋上ヘリポートを備え、「ZEB Ready」認証を取得するなど、災害対応力と環境性能を高めています。

当社グループは、設計・施工・開院準備の段階から移転までの支援業務を受託し、プロジェクトの円滑な推進を支えました。医療機器・什器・備品の整備、医療情報・物流管理システムの整備、外部委託化、運営・移転準備など、多岐にわたる開院業務に、これまで培った知見やノウハウを活用しました。医療機関の新築・移転・増改築を支援する「トータルパックプロデュース事業」の強みを活かすとともに、開院後はグループ会社が患者給食調理業務を担っています。計画から運営までを切れ目なく支える総合力を通じて、今後も医療従事者が力を発揮でき、地域の方々が安心して医療を受けられる環境づくりに貢献していきます。



撮影：株式会社エスエス 走出 直道

case 04 最先端のがん治療施設を支える

大阪重粒子線センター

大阪重粒子線センターは、全国で6番目、民間主導の民設・民営の重粒子線がん治療施設としては国内初の施設として誕生しました。2018年の開院・治療開始以来、国内外の多くの患者様の治療にあたり、2026年3月末までに、前立腺がんの患者様をはじめとして、延べ6,371人と多くの患者様の治療を行ってきた実績があります。「重粒子線」は粒子の質量が大きく、X線や陽子線など他の放射線治療に比べて体内の線量分布に優れています。重粒子線を使ったがん治療は、体へのダメージを最小限に抑えられるほか、照射による痛みも伴わないために入院も不要で、患者様のQOL維持にも優れているとも言われています。

重粒子線治療施設に関し、当社グループでは2013年に大阪府立病院機構の「重粒子線がん治療施設整備運営事業民間事業者」として指名されるなど、これまで重粒子線がん治療施設の開設や運営に関するノウハウを蓄積してきました。大阪重粒子線センターに関しても、その開設から日々の施設運営に至るまで、総合的なサービスを提供してきました。これからも、最先端のがん治療施設の運営支援を通じて、がんと闘う患者様の力になりたいと考えています。

